

令和 3 年度川崎市災害時支援物資受援体制
検討委員会報告書

令和 4 年 3 月

川崎市災害時支援物資受援体制検討委員会

目 次

I	川崎市災害時支援物資受援体制検討委員会の設置について	1
1	検討委員会の設置目的	1
2	委員の構成	1
II	令和3年度の検討委員会の検討内容	2
III	令和3年度の検討委員会の検討経過	2
1	第1回検討委員会（令和3年10月28日開催）	2
2	第2回検討委員会（令和3年12月23日開催）	3
3	第3回検討委員会（令和4年1月24日開催）	4
4	第4回検討委員会（令和4年2月17日開催）	6
IV	本市の現在の物資拠点体制の現状、課題等	7
1	本市地域防災計画等における物資拠点	7
2	各物資拠点の現状、課題等	8
3	現行の物資拠点に係る総評及び今後の検討の方向性について	17
4	まとめ	17

I 川崎市災害時支援物資受援体制検討委員会の設置について

1 検討委員会の設置目的

これまでの大規模災害では、国、自治体、民間等からの様々な救援物資が市の物資拠点に集まった結果、自治体職員による物資の受入・管理・配送等に課題があり、物資拠点から避難所までの円滑な配送が困難となった事例がある。

一方、国では、首都直下地震における応急対策活動に関する計画に基づき、発災後3日目までにプッシュ型支援（被災地からの要請を待たず、必要と見込まれる物資を調達して送付する支援方法）を行うとしており、首都直下地震が発生した際には、被災自治体はプッシュ型支援への対応を迫られる。

本市においては、現状、地域防災計画や受援マニュアルにおいて、物資集積場所や人的・物的受援の基本的な考え方等を定めているが、プッシュ型支援等を想定した具体的な支援物資の物流のオペレーションについては定まっておらず、現時点で大規模災害が発生した場合、大きな混乱が生じる可能性が高い。

このことから、令和3年10月、川崎市防災対策委員会の小委員会として川崎市災害時支援物資受援体制検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置し、災害時における円滑かつ迅速な支援物資の被災者への供給等の実現に向けて、実効性のある受援体制に係るマニュアルを策定について検討を進めていくこととした。

2 委員の構成

名波 義昭 (座長)	株式会社建設技術研究所 取締役専務執行役員 東京本社長（元内閣府（防災担当）参事官）
目黒 公郎	東京大学 総合防災情報研究センター 教授 川崎市防災対策委員会委員長
庄司 学	筑波大学 システム情報系 教授 川崎市防災対策委員会委員
荻野 浩	神奈川県トラック協会 防災対策室長
枝光 正喜	神奈川倉庫協会 常務理事
津田 知之	佐川急便株式会社東京本社事業開発部技術研究課 参事
埴 智明	イオンリテール株式会社
能戸 一憲	神奈川県くらし安全防災局 危機管理防災課長
鈴木 雄二	経済労働局 中央卸売市場北部市場長
勝盛 紀善	経済労働局 産業政策部消費者行政センター室長
小沼 匡弘	建設緑政局 総務部企画課長
森 賢一	港湾局 川崎港管理センター副所長

II 令和3年度の検討委員会の検討内容

検討委員会では、①本市の災害時支援物資受援体制の評価、あり方の検討、②広域物資輸送拠点、市集積場所等の評価、位置付けの検討、③災害時における支援物資の物流のオペレーションのあり方について検討を進め、「川崎市災害時物資供給マニュアル（仮称）」（以下「供給マニュアル」という。）を策定し、実効性のある受援体制の構築を目指すこととした。

令和3年度の検討委員会では、このうち①②について検討を行った。

①については、過去の災害事例等から得られた教訓や課題を元に、支援物資の受援・供給を円滑に行うために整理しておくことが望ましい事項を設定し、これに基づいて現在の本市の計画上の災害時支援物資受援体制の状況を確認するとともに、本市の災害時支援物資供給体制の評価に当たっての検討事項を整理した。

②については、広域物資輸送拠点、市集積場所の視察を踏まえて、各拠点の現状、課題等について整理した。

各委員会での検討経過については、「III 令和3年度の検討委員会の検討経過」に記載するが、特に、②について、災害時の支援物資受援体制の基礎となる物資拠点に課題が見受けられたことから、これについては、「IV 本市の現在の物資拠点体制の現状、課題等」に記載する。

III 令和3年度の検討委員会の検討経過

1 第1回検討委員会（令和3年10月28日開催）

(1) 議事

ア 検討委員会の検討事項について

検討委員会で次の事項について検討を進め、実効性のある受援体制を構築するため、供給マニュアルを策定し、実効性のある受援体制の構築を目指すこととした。

- ①本市の災害時支援物資受援体制の評価、あり方
- ②広域物資輸送拠点、市集積場所等の評価、位置付け
- ③災害時における支援物資の物流のオペレーションのあり方

イ 今後の検討スケジュールについて

令和3年度及び令和4年度に、検討委員会を年4回程度開催する予定とした。

(2) 検討の概要

上記アの供給マニュアルについて、国の首都直下地震に係る計画に基づく災害想定等を基に、災害フェーズに応じた効率的なオペレーションが実施できるよう、災害時の物流に係る官民の役割分担や、本市の物資拠点のあり方・位置付けを整理し、さらに、発災直後における市職員での対応を想定した職員の災害時物流に係る知識・スキルの向上を考慮した内容とすることとした。

(3) 委員からの主な意見・指摘

委員からは、平常時に物資拠点としての機能を有さない施設を物資拠点として使用すると、荷さばきのスペースや床の耐荷重の点で課題があること、物資拠点の運用において必要とされるフォークリフトやそれを運転するオペレーター等の資機材や人材等の確保についても検討しておく必要がある等の意見・指摘があった。

2 第2回検討委員会（令和3年12月23日開催）

(1) 議事

本市の災害時支援物資受援体制の評価、あり方の検討について

- ①川崎市の災害時支援物資受援体制整備に係る基本理念・基本的な考え方（案）
- ②災害時の支援物資の受援・供給を円滑に行うために整理しておくことが望ましい事項等
- ③現在の川崎市の計画上の災害時支援物資受援体制の状況
- ④川崎市の災害時支援物資受援体制の評価に当たっての検討事項（案）

(2) 検討の概要

ア 災害時支援物資受援体制整備に係る基本理念等（上記①）について

市民に分かりやすい基本理念に基づいて、災害時支援物資受援体制の整備を進めることとし、その実現に向けた基本的な考え方として、必要な組織体制の整備、物資拠点・輸送体制の整備、国・県・関係団体の計画等との整合性の確保・役割分担の整理等を行っていくこととした。

イ 受援・供給を円滑に行うため整理しておくことが望ましい事項（上記②）について

過去の災害事例等から得られた教訓等に基づき、災害時の支援物資の受援・供給を円滑に行うために整理しておくことが望ましい事項について、自治体内・官々連携・官民連携の組織体制、拠点の選定基準・運用方法等、輸送手段の確保・手配等と整理した。

ウ 計画上の災害時支援物資受援体制の状況（上記③）について

現在の本市の状況を把握するため、上記イの災害時の支援物資の受援・供給を円滑に行うために整理しておくことが望ましい事項について、神奈川県広域受援計画の内容等を踏まえながら、川崎市防災計画及び川崎市受援マニュアルにおいて、プッシュ型支援への対応や物資拠点の制定基準について記載がないこと等、それらの整備状況について整理した。

エ 災害時支援物資受援体制の評価に当たっての検討事項（上記④）について

上記ウの川崎市防災計画及び川崎市受援マニュアルの整備状況の整理に基づき、川崎市の災害時支援物資受援体制の評価に当たっての検討事項を、組織体制や現在の計画が実態に即しているか、物資の拠点の選定基準を定めているか、拠点の運用や輸送手段の確保・手配について関係団体・民間事業者、官民の役割分担等が明確になっているか等とした。

(3) 委員からの主な意見・指摘

市は災害時における被災者への物資供給体制を整えるとともに、備蓄物資に関する

る自助の啓発を行う必要があること、民間団体に応援を要請する場合には、どのような人材を派遣すればよいかを明確にすること、市場は被災者が商品を購入できる環境を整える役割も有し、拠点として確実に場所を確保することが難しい実情があること等の意見・指摘がなされた。また、熊本地震における各団体の活動と諸課題について、及び神奈川県 の 広域物資輸送拠点の確保に向けた取組みについての報告がなされた。

3 第3回検討委員会（令和4年1月24日開催）

（1）視察

広域物資輸送拠点や市集積場所である中央卸売市場北部市場、等々力緑地の等々力陸上競技場屋内走路及び等々力球場室内練習場並びに緊急輸送道路の視察を実施した。

（2）視察における各施設等の状況の確認

ア 中央卸売市場北部市場

- ①青果棟・水産棟は、平時から多数のトラックが出入りし、施設内でフォークリフトによる荷役をしているため、床荷重等の荷役効率や保管効率に大きな問題はないと示唆される。（写真1）
- ②花卉棟は青果棟・水産棟に比べるとスペースが狭く、多数のラックや競り用の設備・コンベア等があり、パレット積みされたサイズや重量が大きい物資の搬出入の動線の障害となることが危惧される。（写真2）
- ③時間帯によって車両や荷物の混雑度が大きく異なり、多数の車両が作業している状況では、物資の保管スペースの確保が困難なことが危惧される。



写真1（青果棟・水産棟）



写真2（花卉棟）

イ 等々力陸上競技場屋内走路について

搬出入口は1箇所、幅はフォークリフトがすれ違えず、搬出入効率はかなり低い。また、天井高が低く、床荷重は標準的なレベル（300kg/m²）程度と想定されるため、物資を高積みは困難であることが危惧される。（写真3、4）



写真3 (屋内走路入口)

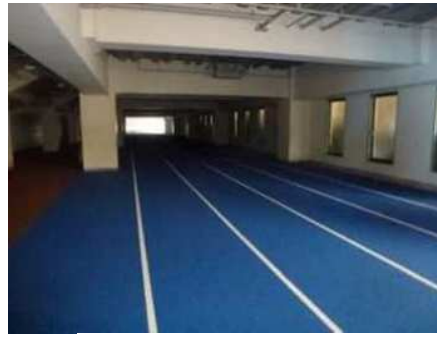


写真4 (屋内走路)

ウ 等々力野球場場室内練習場について

搬出入口は1箇所、台車のすれ違いができないほど幅が狭く、側壁と傾斜もあるスロープとなっているため、物資の出し入れにおける負荷が大きい。また、床荷重は標準的なレベル(300kg/m²)程度と想定されるため、物資を高積みは困難であることが危惧される。(写真5・6)



写真5 (搬出入口スロープ)



写真6 (野球場屋内練習場)

エ 緊急輸送道路等の状況

川崎市は、南北に細長く、市域を東西に横断する道路は、第1次緊急輸送道路の国道409号、第2次緊急輸送道路の多摩沿線道路、北部市場へのアクセス道路である尻手黒川線となっている。

これらは、部分的には2車線×2車線の計4車線となっているが、基本的に1車線ずつの計2車線である部分が多い。

一方で、東京都、横浜市に隣接しており、川崎市を縦断する道路は、東京湾の南側の方から、国道15号、国道1号、第3京浜、国道246号、東名高速道路等があり、これらは交通量が多く幅員も広い。

首都直下地震等の大規模な災害が発生した場合、これらの道路は、都内に向かう緊急車両等で大規模な渋滞が発生する可能性があり、それにより南北の縦の動線が分断される危険性も考慮する必要がある。

(3) 委員からの主な意見・指摘

今回は、施設の面積、構造に関する視察であったが、しっかりとした評価をするためには、各拠点に搬入される物資量や、レイアウト、搬入搬出のルール、車両動線の想定等が必要であることや、各施設の物資拠点としての課題について意見・指摘があった。

4 第4回検討委員会（令和4年2月17日開催）

(1) 議事

- ①広域物資輸送拠点及び市集積場所の状況、課題等
- ②令和3年度検討委員会報告書案

(2) 検討の概要

ア 広域物資輸送拠点及び市集積場所の状況、課題等（上記①）について

川崎市港湾振興会館体育館、等々力陸上競技場屋内走路、等々力球場室内練習場、地方卸売市場南部市場及び中央卸売市場北部市場について、物資拠点として施設の機能、道路ネットワーク、大型車の進入可能性、駐車場、災害ハザード等について整理し、物資拠点としての機能性について確認した。

イ 令和3年度検討委員会報告書案（上記②）について

令和3年度検討委員会報告書案の構成、内容を、委員会の設置について、令和3年度の検討委員会の検討内容・検討経過、本市の現在の物資拠点体制の現状、課題等とすることとした。

(3) 委員からの主な意見・指摘

ア 物資拠点の運用等について

- ・ 物資拠点の運用について、施設の構造等からフォークリフトの使用が困難な場合はローラーコンベアのような機材で対応するとよい。さらに、重量のある物資については、あらかじめ配置する基準を作成していればよい。
- ・ 等々力緑地の物資拠点としての活用について、緊急輸送道路から近くてスペースにも使いやすいような場所であるため使用方法を検討すべきである。さらに、等々力陸上競技場のメインスタジアム下のスペースの使用を検討すべきである。
- ・ 現行の物資拠点である市場について、市場は災害時でも市場機能・食品流通を優先すべきであるが、フォークリフト等の設備の点で物資拠点としての有効性があるため、これらをうまく融合した形で運用できるとよい。

イ 物資拠点の配置等について

- ・ 品目ごとに物資拠点を設置することについて、品目別のトラックが必要になること、オペレーションが複雑化することなどの課題がある。
- ・ 川崎市内の支援物資の輸送について、川崎市は横に細長くて縦に短いという地形であり、縦のラインに比べて横のラインでの移動が難しいことを踏まえて検討を進めるべきである。さらに、多摩川を利用した船舶輸送についてその現実性も含めて検討しておくべきである。

ウ 今後の検討の方向性について

- ・ 今後について、現実的に物資拠点として使えるような場所は探してもそれほどあるわけではなく、いつ発生するかわからない災害に備えて検討を進めていくべきである。

IV 本市の現在の物資拠点体制の現状、課題等

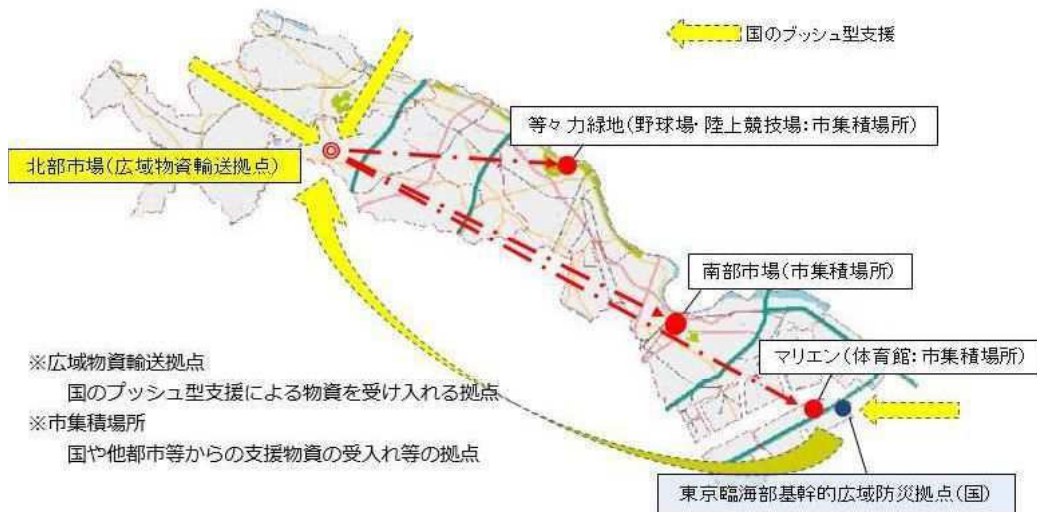
1 本市地域防災計画等における物資拠点

川崎市地域防災計画では、他都市からの救援物資の受入れや、調達物資等を大規模に集約するため、川崎港公共ふ頭、等々力緑地、中央卸売市場北部市場、地方卸売市場南部市場を市集積場所としている。

川崎市受援マニュアルでは、川崎港公共ふ頭及び等々力緑地における市集積場所の具体的な場所として、川崎市港湾振興会館体育館、等々力野球場室内練習場、等々力陸上競技場室内走路としている。

また、中央卸売市場北部市場については、神奈川県災害時広域受援計画により、国のプッシュ型支援における広域物資輸送拠点として位置付けられている。

これらにより、本市における国のプッシュ型支援は、現在の計画上は、広域物資輸送拠点である北部市場に輸送された後、地域内輸送拠点として開設する川崎市港湾振興会館体育館、等々力野球場室内練習場、等々力陸上競技場室内走路、中央卸売市場北部市場、地方卸売市場南部市場を経て、避難所等に輸送することが想定される。



【計画上想定されるプッシュ型支援の流れ】

(参考) 国の「首都直下型地心における具体的な応急対策活動に関する計画」に基づく
本市へのプッシュ型支援の数量（発災後4日目から7日目までの数量）

物資名	単位	数量	物資名	単位	数量
食料	食	2,546,200	大人用おむつ	枚	33,949
毛布	枚	20,959	携帯・簡易トイレ	回	1,595,544
乳児用粉ミルク	k g	1,158	トイレットペーパー	巻	152,770
乳児・小児用おむつ	枚	194,472	生理用品	枚	237,758

2 各物資拠点の現状、課題等

過去の災害事例で得られた教訓などから、物資拠点として考慮すべき事項として一般的に考えられるものを次のとおり確認項目として設定し、各施設の現状、課題等の整理を資料1のとおり取りまとめた。なお、各施設の概要等については資料2のとおりである。

【確認項目】

(1) 施設の物資の保管能力

①利用可能面積、②物資の搬出入効率、③物資の保管効率

(2) 施設の物資の輸配送能力

④道路ネットワーク、⑤大型車の進入可能性、⑥駐車場

(3) 施設の災害時の使用可能性

⑦災害ハザード、⑧耐震基準、⑨非常用発電設備の状況

広域物資輸送拠点及び市集積場所の状況、課題等について

施設の位置付け		市集積場所	市集積場所		市集積場所	市集積場所・広域物資輸送拠点
確認項目(注1)	施設名	川崎公共5頭 (川崎市港湾振興会館体育館)	等々力緑地		地方卸売市場 南部市場	中央卸売市場 北部市場
			野球場 屋内練習場	陸上競技場 屋内走路		
			①利用可能面積	体育館の1/2の約330㎡であり、保管できる物資量は少ない。(残りの1/2は種毛困難者用スペース)	約230㎡であり、保管できる物資量は少ない。	約800㎡であり、保管できる物資量は少ない。
②搬出入効率	搬出入口は幅約3m・高さ約2.3mのものが1箇所、幅約2m・高さ約2.3mのものが2箇所あり、それぞれ出入口付近に数センチの段差やスロープがある。 ・後者の2箇所は、出入口正面に植込みがあり、出入口と植込みの間は幅約1.5mで、搬入は手作業で行う必要がある。 ・床荷重を通常の体育館相当(300kg/m ² ~500kg/m ²)とするとフォークリフトの使用も困難であり、搬出入効率は低い。	物資の搬出入口は、高さ・幅が幅約2.8mのものが1つであり、搬出入口前には幅約3m・長さ約20m・斜度約10度のスロープがあるため、搬出入効率は低い。	・搬出入口は幅約3.1m、高さ約2.1mの電動シャッター1箇所のみ。 ・搬出入口から室内走路出入口までの通路の幅は約3.1mで中央に約65cmの柱がある。 ・室内走路搬出入口は高さ約2m、幅約1.8mであることから、搬出入効率は低い。	搬出入効率は高く、物資保管場所に大型車両が直接進入することも可能である。		
③保管効率	フォークリフトの使用可否 ・300kg/m ² ~500kg/m ² 程度と想定され、フォークリフトの使用は困難である。 階数 ・1階のため階をまたぐ移動はない。	・床荷重が300kg/m ² 程度と想定され、また、スロープがあるため、フォークリフトの使用は困難である。 ・スロープでの移動が発生する。	・上記の通路の状況や、床荷重が300kg/m ² 程度と想定され、フォークリフトの使用は困難である。 ・上記の階のため、階をまたぐ移動はない。	フォークリフトの使用は可能である。		
	床荷重 ・施設用途から300kg/m ² ~500kg/m ² 程度と想定され、物資の高積は困難である。 天井高 ・約8.5mであるが、上記の床荷重が小さいと想定され、物資の高積は困難である。	・施設用途から床面荷重300kg/m ² 程度と想定され、物資の高積は困難である。 ・約7mであるが、上記の床荷重が小さいと想定され、物資の高積は困難である。	・施設用途から床面荷重300kg/m ² 程度と想定され、物資の高積は困難である。 ・約3.6mであり、上記の床荷重が小さいと想定され、物資の高積は困難である。	パレット積み貨物の2段積み等も可能である。	約5mあり、物資の高積も可能である。	
④道路ネットワーク	・西側に面している川崎駅東扇島線、南側に面している東扇島1号線はともに4車線であり、第一次緊急輸送道路(首都高湾岸線)にも隣接していることから、災害時の輸送も行いやすいと考えられる。 ・ただし、市内部へ直接アクセスできる道路は海底トンネルのみである。	2つの第一次緊急輸送道路(府中街道と中原街道)と近接し、第二次緊急輸送道路(多摩沿線道路)と近接しているため、災害時の輸送も比較的行いやすいと考えられる。	4車線の第一次緊急輸送道路(第二京浜道路)が東側に面しており、災害時の輸送も比較的行いやすいと考えられる。	4車線の第一次緊急輸送道路(尻手黒川道路)が北側に面しており、災害時の輸送も比較的行いやすいと考えられる。		
⑤大型車の進入可能性	・進入は可能だが、荷さばき場へ前進入すると、積載スペースを活用しないと方向転換ができない等の課題がある	・搬出入用のスロープ付近のゲートの前にオープンスペースがあり、大型車が進入できる。 ・ただし、スロープ付近で荷降ろしするためには、バックで進入する必要がある。	・搬出入口までの通路は狭く、多数の大型車の進入は困難である。 ・等々力陸上競技場の南ゲートのスペースには10トン車1台が入り、旋回も可能であるが、斜度があるため、荷役作業の危険度は高い。 ・南ゲートは高さ約4.5m、幅約10mであり、10トン車を進入させることはできる。	多数の大型車の進入が可能である。		
⑥駐車場	・普通車253台分 ・大型車6台分	・等々力緑地内に合計約580台分	・約300台分	・約1,900台分		
⑦災害ハザード(注2)	土砂災害、洪水、内水、津波：特になし	・洪水：浸水想定3~5m(3日未満) ・土砂災害、内水、津波：特になし	・洪水：浸水想定5~10m(3日未満) ・内水：浸水想定(敷地の一部)10cm~20cm ・土砂災害、津波：特になし	・洪水：浸水想定0.5m~3m(2時間未満) ・内水：浸水想定(敷地の一部)10cm~50cm ・土砂災害、津波：特になし	土砂災害、洪水、内水、津波：特になし	
⑧耐震基準	新耐震基準	新耐震基準	バックスタンド一部のみ旧耐震基準	旧耐震基準(花き卸売場棟は新耐震基準)	旧耐震基準(花き新棟は新耐震基準)	
⑨非常用発電設備の状況(注3)	あり	あり	あり	あり	あり	
総括	・隣接する道路ネットワークや駐車場の広さなど評価できる点もあるが、 <u>利用可能面積が狭く保管できる物資量が少なく、搬出入効率も低い</u> ため、 <u>物資拠点としての機能性は低い</u> 。 ・多摩川が氾濫した場合は、浸水により利用が困難なことが想定できる。	・ <u>利用可能面積が狭く、保管できる物資量が少ない</u> 、 <u>搬出入効率が低い</u> など、 <u>物資拠点としての機能性は低い</u> 。 ・多摩川が氾濫した場合は、浸水により利用が困難なことが想定できる。	・ <u>利用予定面積、物資の搬出入効率・保管効率、道路ネットワーク、駐車場の広さなど、多くの点で物資拠点としての機能性は高い</u> 。 ・一方で、市場は、生鮮食品等の流通拠点として常に使用されていることから、 <u>災害時に物資拠点としての利用できる面積等が災害時の状況や流通機能の復旧状況に影響される点</u> は、 <u>大きな課題</u> である。 ・なお、南部市場は、多摩川が氾濫した場合は、浸水により利用が困難なことが想定できる。			

(注1) 浸水想定、浸水時間は、川崎市ハザードマップ(多摩川水系)による。

(注2) 非常用発電設備でどこまでの施設が稼働するかは別途詳細調査が必要

(参考文庫) 一般社団法人神奈川県トラック協会「災害救援物資物流のあり方検討-物資拠点調査結果-」(平成28年度調査)

I 川崎市における広域物資輸送拠点と市集積場所

資料2



II 川崎市港湾振興会館・体育館

1 施設の概要



- ・西側に面している川崎駅東扇島線、南側に面している東扇島1号線とともに4車線であり、第一次緊急輸送道路（首都高湾岸線）にも隣接していることから、災害時の輸送も行いやすいと考えられる。
- ・ただし、市内部へ直接アクセスできる道路は海底トンネルのみである。



2 アクセス

〒210-0869 川崎市川崎区東扇島38-1

JR川崎駅東口 11・12番乗り場から市営バス「川05系統東扇島循環」にて約30分「川崎マリエン前」下車

駐車場
普通自動車253台 身障者用4台
大型自動車6台
二輪車15台（無料）



3 物資拠点スペース

- ・体育館の1/2の約330㎡であり、保管できる物資量は少ない。（残りの1/2は帰宅困難者用スペース）
- ・搬出入口は幅約3m・高さ約2.3mのものが1箇所、幅約2m・高さ約2.3mのものが2箇所あり、それぞれ出入口付近に数センチの段差やスロープがある。
- ・2か所ある搬出入口は口正面に植込みがあり、搬入は手作業で行う必要がある。
- ・床荷重を通常の体育館相当（300kg/㎡～500kg/㎡）とするとフォークリフトの使用も困難である。
- ・敷地内の進入は可能だが、荷さばき場へ前進進入すると、植栽スペースを活用しないと方向転換ができない等の課題がある。

4 諸元

敷地面積	37,649㎡
延床面積	12,076㎡
建築面積	3,439㎡
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造等（交流棟）
開設日	平成4年3月

5 運営・災害想定等

休館日	12月29日～1月3日
管理形態	指定管理者
施設管理者	公益財団法人川崎港振興協会等
地域防災計画等 の位置付け	市集積場所・津波避難施設 帰宅困難者一時滞在施設
災害ハザード	
土砂災害	対象外
洪水浸水想定	対象外
津波浸水予測	0～0.8m（敷地の一部）
内水浸水想定	対象外
耐震基準	新耐震基準
非常用発電 設備の状況	あり
大規模改修等の 予定	なし

6 状況・課題等

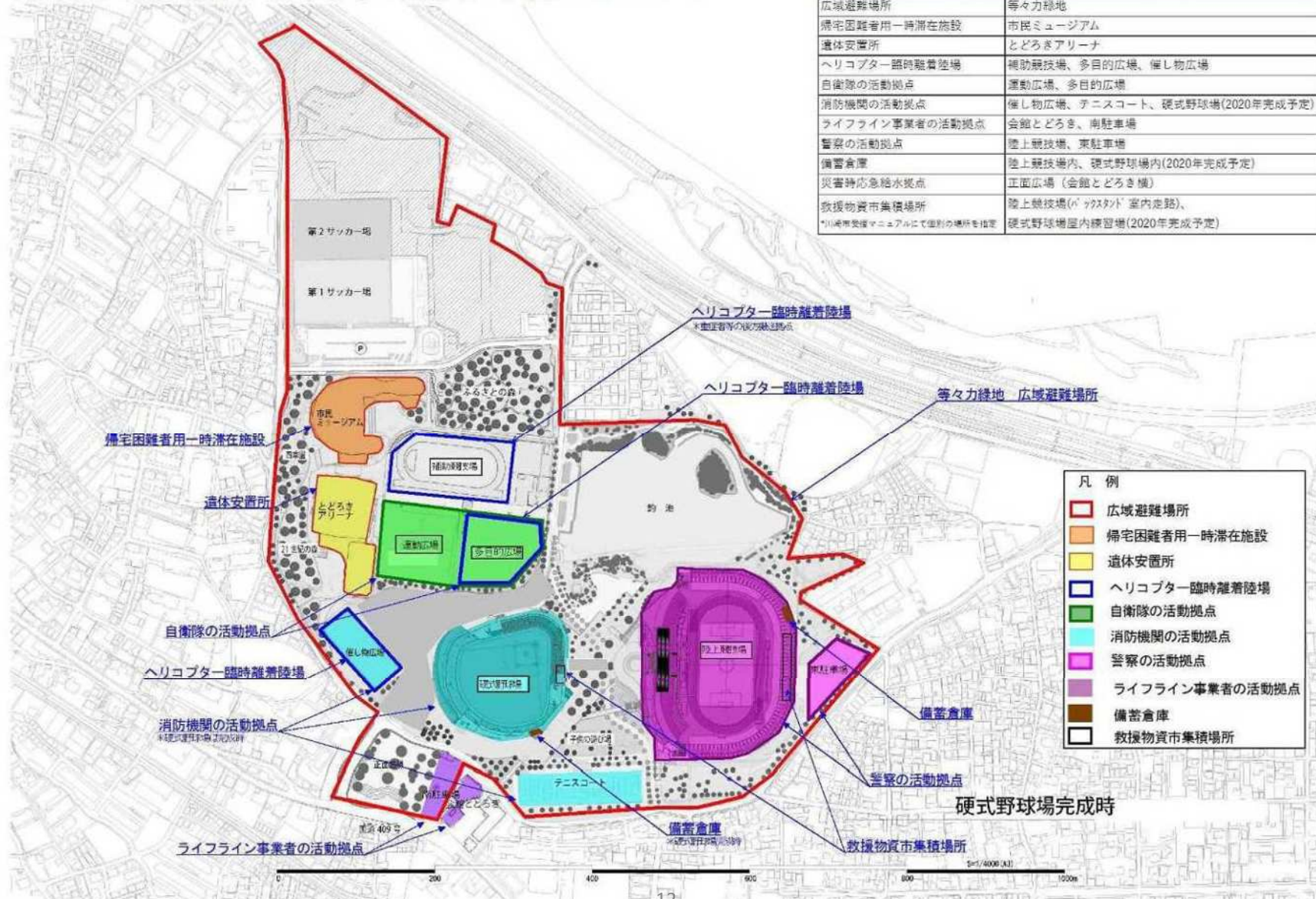
- ・隣接する道路ネットワークは良い。
- ・駐車場は広い。
- ・利用可能面積は狭い。
- ・搬出入効率は低い。

▶ 物資拠点としての機能性は低い。

Ⅲ-① 等々力緑地（概要）

川崎市地域防災計画における等々力緑地の位置づけについて

地域防災計画上の位置付け	場所
広域避難場所	等々力緑地
帰宅困難者用一時滞在施設	市民ミュージアム
遺体安置所	とどろきアリーナ
ヘリコプター臨時離着陸場	視聴競技場、多目的広場、催し物広場
自衛隊の活動拠点	運動広場、多目的広場
消防機関の活動拠点	催し物広場、テニスコート、硬式野球場(2020年完成予定)
ライフライン事業者の活動拠点	会館とどろき、南駐車場
警察の活動拠点	陸上競技場、東駐車場
備蓄倉庫	陸上競技場内、硬式野球場内(2020年完成予定)
災害時応急給水拠点	正面広場(会館とどろき横)
救援物資市集積場所	陸上競技場(バックスタ)室内通路、 硬式野球場屋内練習場(2020年完成予定)

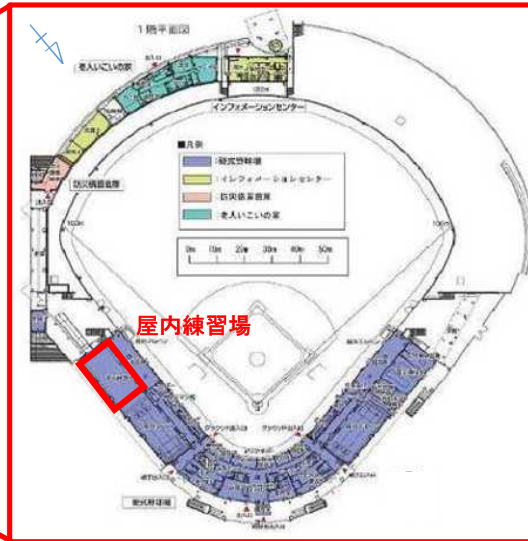


Ⅲ-② 等々力緑地（硬式野球場屋内練習場）

1 施設の概要



・2つの第一次緊急輸送道路（府中街道と中原街道）と近接し、第二次緊急輸送道路（多摩沿線道路）と近接しているため、災害時の輸送も比較的行いやすいと考えられる。



4 諸元

敷地面積	37,713㎡
建築面積	6,300㎡
延床面積	11,980㎡
構造	鉄筋コンクリート造、プレキャスト鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
開設日	令和2年10月

5 運営・災害想定等

休業日	12月29日～1月4日
管理形態	委託
施設管理者	川崎市
地域防災計画等の位置付け	市集積場所、集中備蓄倉庫の活動拠点（消防機関）
災害ハザード	
土砂災害	対象外
洪水浸水想定	浸水想定 3～5m（3日以内）
津波浸水予測	対象外
内水浸水想定	対象外
耐震基準	新耐震基準
非常用発電設備の状況	あり
大規模改修等の予定	なし

2 アクセス

〒211-0052 川崎市中原区等々力1-1

JR南武線・東急東横線目黒線
「武蔵小杉駅」から
・市営バス
「溝03、04、05、杉40」系統
・東急バス
「溝02」系統
「市営等々力ランド入口」または
「市営等々力ランド前」下車



・東駐車場（158台）・市民ミュージアム前駐車場（323台）
・南駐車場（71台）

3 物資拠点スペース

・約230㎡であり、保管できる物資量は少ない。
・物資の搬出入口は、高さ・幅が横約2.8mのものが1つであり、搬出入口前には幅約3m・長さ約20m・斜度約10度のスロープがあるため、フォークリフトの使用も困難であり、搬出入効率は低い。
・天井高は約7mであるが、上記の床荷重が小さいと想定され、床耐荷重は300kg/㎡程度と想定され、物資の高積みは困難である。
・搬出入用のスロープ付近のゲートの前にオープンスペースがあり、大型車が進入できるがバックで進入する必要がある。

6 状況・課題等

・利用可能面積は狭い。
・搬出入効率は低い。
▶ 物資拠点としての機能性は低い。
・多摩川が氾濫した場合は、浸水により利用が困難なことが想定できる。

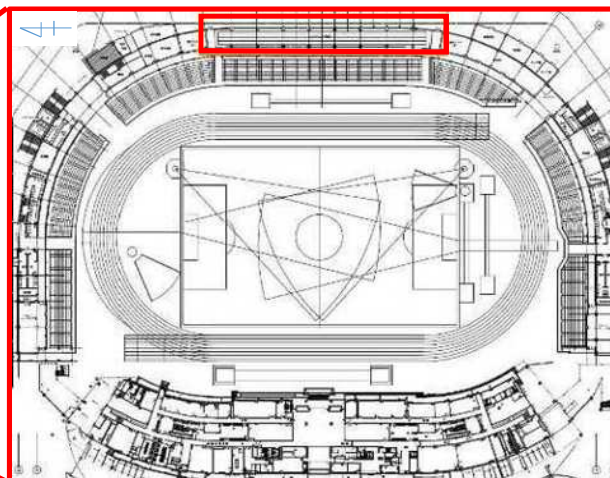
Ⅲ-③ 等々力緑地（陸上競技場屋内走路）

1 施設の概要



・2つの第一次緊急輸送道路（府中街道と中原街道）と近接し、第二次緊急輸送道路（多摩沿線道路）と近接しているため、災害時の輸送も比較的行いやすいと考えられる。

屋内走路



4 諸元

敷地面積	70,110㎡
建築面積	21,488㎡
延床面積	43,957㎡
構造	プレキャスト鉄筋コンクリート造、一部鉄筋コンクリート造、鉄骨造（バックスタンド）
開設日	昭和41年（バックスタンド）

5 運営・災害想定等

休業日	12月29日～1月4日
管理形態	委託
施設管理者	川崎市
地域防災計画等	市集積場所、集中備蓄倉庫
の位置付け	活動拠点（警察）
災害ハザード	
土砂災害	対象外
洪水浸水想定	浸水想定 5～10m（3日以内）
津波浸水予測	対象外
内水浸水想定	10cm～20cm（敷地の一部）
耐震基準	バックスタンドの一部のみ旧耐震基準
非常用発電設備の状況	あり
大規模改修等の予定	令和8年度以降

2 アクセス

〒211-0052 川崎市中原区等々力1

JR南武線・東急東横線目黒線
 「武蔵小杉駅」から
 ・市営バス
 「溝03、04、05、杉40」系統
 ・東急バス
 「溝02」系統
 「市営等々力グラウンド入口」または
 「市営等々力グラウンド前」下車



・東駐車場（158台）・市民ミュージアム前駐車場（323台）
 ・南駐車場（71台）

3 物資拠点スペース

- ・約800㎡であり、保管できる物資量は少ない。
- ・搬出入口は幅約3.1m、高さ約2.1mの電動シャッター1箇所である。
- ・搬出入口から室内走路出入口までの通路の幅は約3.1mで中央に約65cmの柱があるなど、フォークリフトの使用は困難である。
- ・天井高約3.6m程度で、床荷重300kg/㎡程度と想定されることから、物資の高積みは困難である。
- ・搬出入口までの通路が狭く、多数の大型車の進入は困難である。

6 状況・課題等

- ・利用可能面積は狭い。
- ・搬出入効率は低い。
- ▶ 物資拠点としての機能性は低い。
- ・多摩川が氾濫した場合は、浸水により利用が困難なことが想定できる。

Ⅳ 川崎市地方卸売市場 南部市場

1 施設の概要



・4車線の第一次緊急輸送道路（第二京浜国道）が東側に面しており、災害時においても輸送手段は確保しやすいと考えられる。



4 諸元

敷地面積	32,224㎡
延床面積	10,704㎡（青果卸売場棟、水産卸売場棟、花き卸売場棟）
構造	S造（青果卸売場棟、水産卸売場棟、花き卸売場棟）
開設日	昭和19年11月

5 運営・災害想定等

休業日	なし
管理形態	指定管理
施設管理者	川崎市場管理株式会社
地域防災計画等の位置付け	市集積場所
災害ハザード	
土砂災害	対象外
洪水浸水想定	0.5m～3m（24時間未満）
津波浸水予測	対象外
内水浸水想定	10cm～50cm（敷地の一部）
耐震基準	旧耐震基準：青果棟、水産棟 新耐震基準：花き棟
非常用発電設備の状況	あり
大規模改修等の予定	なし

2 アクセス

〒212-0016
神奈川県川崎市幸区南幸町3-126-1

- ・JR南武線「尻手駅」から徒歩5分
- ・臨港バス 尻手駅前バス停下車 徒歩約5分
- ・駐車場 約300台



3 物資拠点スペース

- ・青果卸売場棟・水産卸売場棟・花き卸売場棟等の計約7,500㎡が利用の対象になるが、利用可能な場所を事前に特定することが困難であり、災害時の状況や流通機能の復旧状況により、利用可能面積が縮小する可能性がある。
- ・搬出入効率は高く、物資保管場所に大型車両が直接進入することも可能である。
- ・天井高が約5mあり、パレット積み貨物の2段積み等も可能である。
- ・多数の大型車の進入が可能である。

6 状況・課題等

- ・利用可能面積は広い。
- ・物資の搬出入効率・保管効率は良い。
- ・道路ネットワークは良い。
- ・駐車場は広い。
- ▶ 物資拠点としての機能性は高い。
- ・災害時に物資拠点としての利用可能な面積等が災害時の状況や流通機能の復旧状況に影響される点は、大きな課題である。
- ・多摩川が氾濫した場合は、浸水により利用が困難なことが想定できる。

V 川崎市中央卸売市場 北部市場

1 施設の概要

- 第一次緊急輸送道路
- 第二次緊急輸送道路



・4車線の第一次緊急輸送道路（尻手黒川道路）が北側に面しており、災害時の輸送も比較的行きやすいと考えられる。

4 諸元

敷地面積	168,587㎡
延床面積	48,865 ㎡(青果棟、水産棟、花き棟)
構造	SRC造（青果棟、水産棟、花き棟）
開設日	昭和57年1月

5 運営・災害想定等

休業日	なし
管理形態	直営
施設管理者	川崎市
地域防災計画等の位置付け	市集積場所 広域物資輸送拠点
災害ハザード	
土砂災害	対象外
洪水浸水想定	対象外
津波浸水予測	対象外
内水浸水想定	対象外
耐震基準	旧耐震基準：青果棟、水産棟 新耐震基準：花き棟
非常用発電設備の状況	あり
大規模改修等の予定	北部市場機能の効率的な整備手法について検討中

2 アクセス

〒216-8522 神奈川県川崎市宮前区水沢1-1-1

最寄り駅からのバスの利用

- 東急田園都市線
あざみ野駅/たまプラーザ駅
宮前平駅/溝の口駅
- 小田急線
向ヶ丘遊園駅/登戸駅
生田駅
- JR南武線
登戸駅/武蔵溝ノ口駅
- 駐車場 約1,900台



3 物資拠点スペース

- 青果棟・水産棟・花き棟等の約11,850㎡が利用の対象となるが、利用可能な場所を事前に特定することが困難であり、災害時の状況や流通機能の復旧状況により、利用可能面積が縮小する可能性がある。
- 搬出入効率は高く、物資保管場所に大型車両が直接進入することも可能である。
- 天井高が約5mあり、パレット積み貨物の2段積み等も可能である。
- 多数の大型車の進入が可能である。

6 状況・課題等

- 利用可能面積は広い。
- 物資の搬出入効率・保管効率は良い。
- 道路ネットワークは良い。
- 駐車場は広い。
- ▶ 物資拠点としての機能性は高い。
- 災害時に物資拠点としての利用可能な面積等が災害時の状況や流通機能の復旧状況に影響される点は、大きな課題である。

3 現行の物資拠点に係る総評及び今後の検討の方向性について

上記2のとおり、川崎市地域防災計画等において物資拠点に位置付けられている5箇所について、個別にみると要件を充足している項目もあるが、各施設において、利用可能面積が狭い、搬出入効率が低い、災害時の状況等に応じて利用可能面積が変化するなど、物資拠点としての機能性に課題が見受けられた。

過去の災害において、物資拠点において支援物資が滞留し、避難所や被災者まで届かないといった事態が生じており、支援物資の物流のオペレーションを検討する上で、機能性の高い施設を物資拠点として確保することが重要である。

したがって、より機能性の高い施設の確保に向けて、今後の検討に当たっては、次の取組を行うべきと考える。

【取組項目】

- 川崎市の地理的特性や災害ハザードの状況、避難所数、人口分布、道路ネットワーク等を考慮した専門的な調査に基づく選定基準の策定
- 川崎市の状況を踏まえた選定基準の優先順位の整理
- 選定基準に基づく現在の物資拠点の評価及び新たな候補施設の選定
- 現在の物資拠点及び新たな候補施設の位置付け・役割の整理

実効性のある物資拠点体制を整理した上で、具体的な災害時物流のオペレーションに必要な項目を整理し、供給マニュアルの策定の検討を進めていくことが求められる。

4 まとめ

災害時における支援物資の物流を円滑に行うためには、川崎市の人的・物的資源だけでは限界があり、神奈川県や物流事業者等の民間団体との連携が不可欠である。

近年の災害を例にみると、支援物資が到着した時点で受入体制が整っていなかったため、まずそこで物流が滞り、さらに指定されていた広域物資輸送拠点が被災により使用できず、結果として県外の民間の物流事業者の施設を活用したことにより円滑な対応が可能になった事案や、受入当初に支援物資を煩雑に受け入れてしまったことにより、何をどこから取り出すか混乱をきたしたため、民間の物流倉庫の管理者のマネジメントにより、支援物資の入れ直しを行い、避難所への搬出・輸送がスムーズになったという事案などが挙げられる。

川崎市においては、このような事態が生じることがないように、平時から準備を進めておくべきであるが、物資拠点に指定している北部市場及び南部市場は、基本的に、終日市場として稼働しており、災害時の状況に応じて利用できる面積等が影響を受けることが想定され、他の物資拠点にも課題が多く見受けられる。

今後は、現在の物資拠点に指定している施設の位置付けや運用を再考しつつ、川崎市の地形的な特徴による災害時の物資輸送に係るリスクも考慮し、市域外の施設を物資拠点として活用するなど、広域的かつ柔軟な対応も視野に入れ、検討する必要があると考えられる。一方で、機能性の高い施設は限られており、また、災害はいつ発生するかわからないことから、スピード感を持って、現実的な判断を行い、検討を次の段階に進めることも必要である。